

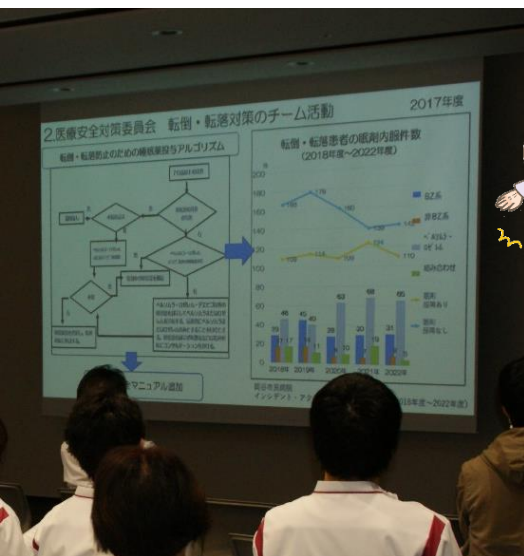
2月2日（金） 院内学術集会在開催されました。

今年は看護師3題、リハビリテーション科2題、放射線科1題、検査科1題、薬剤科1題、研修医3題、医師・歯科医師3題の計14題の発表がありました。



岡谷市民病院における褥瘡管理の今昔、臨床看護師の呼吸回数測定に関する意識調査、最近の検査の動向と効果、骨粗しょう症治療薬の使用状況の調査、医療安全対策室による転倒・転落対策のチーム活動報告など、17:40～20:00 時近くまで、白熱？した発表、質疑応答がありました。多職種で構成されるチームの取り組みを発表するなど、チーム医療が反映されていると感じました。

また、研修医師の発表には「新たな知見」や「文献検索」などに院長や先輩医師達から、鋭い質問がありました。（-_-;）



転倒転落予防では、取り組みの一つである「転倒転落防止のための睡眠薬投与のアルゴリズム」の作成とその効果に触れたところ、薬剤師より「持ち込みの睡眠薬にベンゾジアゼピン系が多い」と追加情報がありました。

ベンゾジアゼピン系の薬は筋弛緩作用があり、70歳以上は転倒転落リスクが高くなります。処方や服薬されている患者さんには注意が必要です。

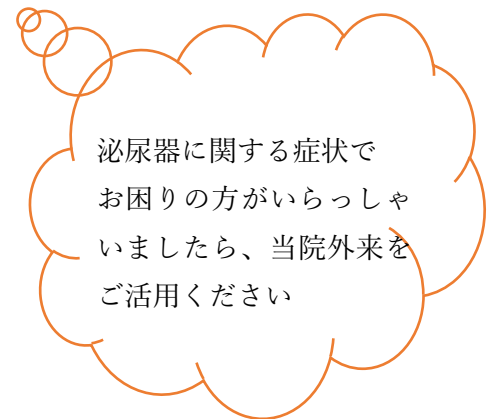
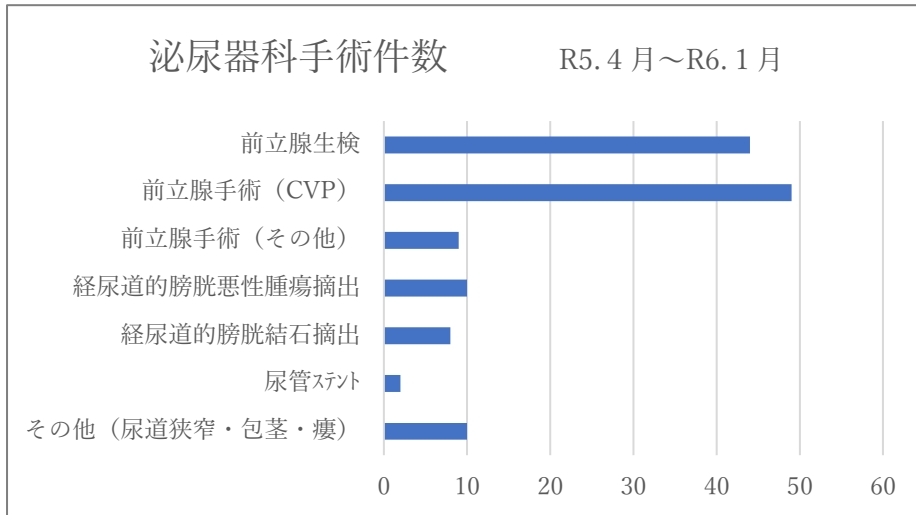
*参加者の投票で決定する「学術委員会賞」最も印象的！と「学術奨励賞」日常診療上有用！それから「院長特別賞」最も優秀 by 院長！が表彰されます。結果はホームページでどうぞ♥

泌尿器科手術 がんばってマス

平素より当院泌尿器科へのご紹介ありがとうございます。

今回は泌尿器科手術件数についてご報告します。

令和5年4月に平形医師が着任して、前立腺の手術が増えました。地域連携通信6月でご紹介した前立腺肥大症手術〈接触式レーザー前立腺蒸散術〉が最も多く行われています。



1月27日(土) 第41回日本中部手外科学会 in 松本 盛況に終わりました!!

シンポジウム「橈骨遠位端骨折後の骨粗鬆症治療の実際」では、骨粗鬆症治療について意見が交わされました。閉経後早期に橈骨遠位端骨折は発生率が上昇し、75歳以上の高齢者では転倒時に防御的に手をつくことができず大腿骨近位部を打撲、骨折することが多くなり、橈骨遠位端骨折は減少する。骨粗鬆症患者の初発骨折として橈骨遠位端骨折が最も頻度が高いため『センチネル骨折』と呼ばれている。その骨折治療後の骨粗鬆症の診断と治療頻度、投薬の種類、歯科治療時の休薬などについて討論されました。

2022年の診療報酬改定で【大腿骨近位部骨折に関わる二次性骨折予防継続管理料】が新設され、高齢化が進む中元気な日常を営むためにも、早めの骨粗鬆症診断、治療と継続が望まれます。

先の院内学術集会においても「大腿骨近位部骨折術後の骨粗鬆症治療薬の使用状況に関する調査」で退院後の継続状況把握が困難であることが判明し、治療率向上のためには地域のクリニックや施設と連携したリエゾンサービスの構築が必要と発表がありました。何らかの連携パフォーマンスに期待するところです。



全国大会優勝!の松本蟻ヶ崎高校書道部の皆さんによる書道パフォーマンスがありました。

軽井沢 G7 サミットでもパフォーマンスしたそうです。

澁刺とした勢いが まぶしい(^_-)-☆

整形外科外来の廊下に展示してあります。達筆 見に来てね



【編集後記】 暦の上では春ですが、窓の外は真っ白な雪がこれでもかと降り続けています。こんな時は暖かい炬燵でみかんでも食べながら、ゆったりと積もる雪景色を眺めていたいものです。(現実逃避:K)

